



お茶の水女子大学 グローバルCOEプログラム 格差センシティブな人間発達科学の創成 ニュースレター 第7号

- 2面 国際シンポジウム／講演会
- 3面 公開セミナー
- 4面 リサーチ・アシスタントの成果報告／イベント開催予定

国際委員会委員長挨拶

国際委員会は、国際的拠点形成の実現に向けた学術交流・情報発信・機関連携の場の提供を目的に、国際シンポジウムの主催、英語による論文作成およびプレゼンテーションのためのセミナーの開催を行っています。国際シンポジウムは、教育・社会的格差、国際的格差、養育環境格差の各研究領域の研究テーマを扱うと同時に、国内外の研究者が従来の学問領域を超えて学術的議論を深めていけるような構成で行

われています。各回の内容はグローバルCOEのHPにその記録が残されていますし、2009年のシンポジウムはHP上で動画配信されていますので、是非ご覧になってください。大学院生の皆さんには、論文作成およびプレゼンテーションのセミナーを通して国外に向けた研究発信のスキルアップをするとともに、国際シンポジウムの中で国内外の研究者との交流の経験を積んでいたきたいと考えています。



国際委員会委員長 大森 美香

基礎問題プロジェクト

お茶の水女子大学グローバルCOEでは、「国際的格差」「教育・社会的格差」「養育環境格差」の3つの研究領域間の相互理解と連携を深めるため、「基礎問題プロジェクト」研究会を実施しています。2010年度後期には、第7回研究会が行われました。

第7回研究会「総合的な子ども政策の展望」

日時：2010年9月4日(土) 13:30～16:30

会場：お茶の水女子大学 共通講義棟2号館 101号室

参加者：62名



基礎問題プロジェクトでは、幼保一元化を中心とした子ども・子育て支援施策の再編成を機に、子ども政策のあり方を領域横断的に問うシンポジウムを開催しました。当日は猛暑にもかかわらず、多くの方にご来場頂きました。伊藤淑子氏(北海学園大学)には、早期教育・ケアを重視するイギリスの子どもサービスについて、保育と幼児教育の統合、保育・教育と福祉との統合の過程を中心にお話いただき、柏女霊峰氏(淑徳大学)からは、現行の子ど

も家庭福祉の問題点の指摘、現在進行中の幼保一体化を中心とした「子ども・子育て新システム」についての提言がありました。池田祥子氏(こども教育宝仙大学)は、「保育」という用語の歴史的変質や戦後の幼保二元化と家族観の検討を通して、教育概念としての「保育」概念の再構築という問題を提起されました。後半、普遍主義と選別主義の関係、家庭環境や養育環境の位置づけ、「発達」概念の組みかえという観点から、時間いっぱいまで議論が行われました。

第4回国際シンポジウム「子どもの発達と養育環境：ペアレンティングと子どものQOL」

【日時】2010年10月5日（火）16:00～19:00

【会場】お茶の水女子大学 共通講義棟2号館102号室

【使用言語】英語・日本語（同時通訳）

第1部 シンポジウム「アジアの子どもの養育環境とQOL」

- ・「親子のQOLの縦断的变化とその関連要因」

松本聡子（お茶の水女子大学）

- ・「親子のQOL調査：アジア各国からの基礎報告」

徐凌中（中国：山東大学）

第1部のシンポジウムでは、まず松本聡子特任リサーチ・フェローが、親子のQOL (Quality of Life) の縦断的研究からQOLに影響する要因について報告しました。続いて、養育環境格差領域と国際的格差領域が共同で実施している、アジア諸国における子どものQOLの比較研究の調査報告が行われました。中国・タイ・ベトナム・日本の研究者が、各国の幼稚園で実施した親子のQOLと子どもの発達状況を把握する質問紙調査のデータを用いて、各国における都市部と農村部の親子のQOLの違いや親子間の比較について報告を行いました。

第2部ではサラ・フリードマン氏に、母親への情緒的・行動的支援を長期的に行うことで子どもにとってより良い養育環境を作ることを目的とした、母親に対する育児介入プログラム「Legacy for Children」の概要や米国での取り組み状況について、講演いただきました。

質疑応答では、それぞれの国の状況に合った介入プログラムの検討や、介入を取り巻く社会システムの重要性、その基盤となるメカニズムの解明の必要性が論じられ、充実した討論が行われました。大学院生も積極的に英語で質問し、白熱した議論に参加しました。100名以上の参加があり、会場の大教室はほぼ満席でした。

ニチャラ・ルアンダラガノン（タイ：マヒドン大学）

トラン・ディエップ・ツアン（ベトナム：ホーチミン医科大学）

安治陽子（お茶の水女子大学）

第2部 講演「母親の養育への介入研究」

サラ・フリードマン（米国 CNA パブリックリサーチ研究所）



講演会「生涯学習における能力（コンピテンシー）と評価」

2010年9月21日（火）「生涯学習における能力と評価」をめぐる講演会が開かれました。まずイ・ビョンジュン釜山大学教授から「社会的環境、能力（コンピテンシー）および評価：Social Gap

との関連性を中心に」について報告があり、続いてパク・ジェオン釜山大学BK21 研究員（BK21 は日本のグローバル COE に該当する韓国の研究プロジェクト）から「美術館学習者研究と社会

階層分析：P. Bourdieu の理論を中心に」という講演がありました。学外を含め12名の参加があり、内容や研究方法をめぐって活発な質疑応答が行われました。

講演会「グローバリゼーション：成人教育・高等教育への新しい挑戦と機会」

2010年10月16日（土）、国立教育政策研究所との共催事業として、ジョージア大学名誉教授のシャラン・S・メリアム氏の講演会を開催しました。グローバリゼーションと急速な社会変動の中にあって、成人教育および高等教育には従来の視点や役割に加えて、①非西欧的パースペクティブ（アジアやアフリカの視点）、②全体的 (Holistic) な学習の視点（身体やスピリチュアリティなど）、③批判的なパースペクティブ（ジェンダーなど）の視点が必要であるという強いメッセージが発せられました。質疑応答も活発で意見交換が十分にできた、実りある講演会でした。参加者は40名でした。

リカの視点）、②全体的 (Holistic) な学習の視点（身体やスピリチュアリティなど）、③批判的なパースペクティブ（ジェンダーなど）の視点が必要であるという強いメッセージが発せられました。質疑応答も活発で意見交換が十分にできた、実りある講演会でした。参加者は40名でした。



国際セミナー「ブルキナファソ・マリにおける Early Childhood Development (ECD) と格差」

お茶の水女子大学グローバル協力センターとの共催で、中西部アフリカのフランス語圏4カ国（カメルーン、セネガル、マリ、ブルキナファソ）の中央／地方の教育行政官・視学官、教員養成校の教員計10名を招き、このうちマリとブルキナファソにおける子どもの現状と幼児の発達格差について議論する国際セミナーを2010年9月29日（水）に開

催しました。両国の報告者より、幼児支援の制度、就学前プログラムへの参加状況統計、子どもの発達やプログラムへの参加をめぐる格差、幼児の発達支援に関する問題点及び課題、日本での研修において学びたい知識や技能、などについて発表があり、アフリカ4カ国間および日本側の専門家との間で活発な意見交換がなされました。



国際セミナー「セネガル・カメルーンにおける Early Childhood Development (ECD) と格差」

上記4カ国のうちセネガルとカメルーンにおける子どもの現状と幼児の発達格差について議論する国際セミナーを、2010年9月30日（木）に開催しました。両国の報告者より、幼児支援の制度、就学前プログラムへの参加状況統計、子どもの発達やプログラムへの参加をめぐる格差、幼児の発達支援に関する問題点及び課題、などについて発表があり、ア

フリカ4カ国間および日本側の専門家との間で活発な意見交換がなされました。本学では、様々な国際支援活動に取り組んでいますが、特に2010年10月を「国際支援活動強化月間」と定め、今回の研修員受入れも含め多くの国際支援活動を展開しました。なお、それらの国際支援活動は国立大学フェスタの一部としても位置づけられています。



国際セミナー「アフリカにおける子ども発達支援に向けて：中西部アフリカ4カ国の取り組み」

2010年10月19日（火）、上記4カ国からの参加者10名に、各国の子ども発達支援の改善に向けた行動計画を報告していただきました。これらの行動計画はJICA（国際協力機構）とお茶の水女子大学による約3週間の研修の成果として、日本の幼児教育や子育て、幼児に関する政策、保育実践と運営、保育理論、格差の是正策、住民参加の促進、地

方における工夫、障害児の教育、教材作成ワークショップなど、様々な学びの集大成として作成されたものです。アフリカ4カ国間での意見交換のみならず、日本側参加者、援助機関、海外の研究者からも有益なコメントが出され、活発な議論が展開されました。参加者は25名でした。



講演会「学校教育を補完する学習機会の保障：アメリカ・オークランド市教育委員会の教育格差解消に向けた試み」

2010年11月15日（月）、教育・社会的格差領域 JELS（青少年期から成人期への移行についての追跡的研究）と文部科学省特別経費プロジェクト「附属学校園を活用した新たな学校教育制度設計に係る調査研究」、科学研究費プロジェクト「保育職資格の更新制・上進制導入に伴う養成課題」は、オークランド市教育委員会の補完的学習課の長であるジェイン・ニコルソン氏を招聘し、同市が取り組んだ補完的学習の体制やサービス提供状況をテーマとした講演会を共催しました。貧

困層や第一言語が非英語である家庭の割合が高いオークランド市は、2007年に補完的学習課を開設し、一定の所得以下の家庭の誕生から青年期までの子どもを対象に、学校内外での学びの支援を無償で提供しています。取り組みの独自性として、あらゆる資源とサービスの一本化、子どもの成功体験を継続させること、中流家庭の子どもなら「あたりまえ」の豊かな学習機会を恵まれない子どもに保障することなどが挙げられました。33名の参加者が活発な質疑を行いました。



リサーチ・アシスタント (RA) の成果報告

2010年9月27日(月)に2010年度第1回RA研究報告会を開催しました。公募研究採択者を除くD2以上とD1の一部が報告し、主としてD1がコメントしました。さらに、3名の報告が終わることに設けられた質疑応答では、教育学・心理学・社会学の異なる研究領域間で活発な意見交換や議論が交わされ、若手研究者の相互理解と研究交流に大きく貢献しました。第2回RA研究報告会は報告者とコメントターの役割を第1回とは逆にして、2011年2月7日(月)に開催しました。

2010年度に採用されたRA36名のうち3名の活動報告を以下に掲載します。



芦谷 由衣さん(心理 D1)

私は、聴覚と運動感覚における同期の熟達化過程を検討するために、フィンガータッピング課題を用いて研究を行っています。現在は、熟達者を得るための実験を進めています。RAとして採用していただき、アルバイトをすることなく、研究に時間を費やすことができました。実験に必要な器具を揃えることもでき、さらにはRAの業務が研究の遂行ということで力も入りました。RAの活動では、研究報告会において、異なる領域の方々と交流を持つことができ、発表方法や自身の研究意義について、見直すことができました。また、国際シンポジウムの運営補助では、大変貴重な経験ができました。このような機会を与えて下さり、ありがとうございました。

中根 由香子さん(心理 D1)

研究課題は、対人関係に焦点を当てた心理教育プログラムパッケージ作成であり、中学校をフィールドとして実践研究を行っています。学校の個別ニーズを反映するプログラムを目指しているため、本年はこれまで実施してきたプログラム内容の修正・実施に加えて、学校の個別ニーズに関する情報を収集・整理するフォーマットを作成しました。結果から、さらにプログラムを改善する知見を得ることができました。また、研究報告会は自身の研究について振り返るよい機会となりました。この研究は、学校との綿密なやりとりが必要であり、プログラムの準備に時間もかかるため、ご支援いただいたことで実現させることができました。感謝申し上げます。

竹山 貴子さん(教育 D3)

私は、音楽文化史のなかで、子どもがどのような存在として捉えられてきたのかという研究に取り組んでいます。特に19世紀イギリスでの子ども向け演奏会の誕生経緯と、その思想的背景を明らかにするため、当時の新聞や音楽雑誌を主に検討しています。RAとして支援していただき、イギリスやドイツの文献の取り寄せや、遠方の図書館での資料収集が大変スムーズになったことはもちろん、学会や研究会へも積極的に参加できるようになりました。また、年に2度あるRAの研究報告会では、自分の研究成果の発表だけでなく、他領域の研究に対してもコメントすることによって、自身の知見がより広まると感じています。誠にありがとうございました。

2011年度開催予定の情報

2010年度公募研究報告会

2010年度公募研究者23名による研究報告会を開催します。皆様のご来場をお待ちしております。

【日時】2011年4月4日(月) 12:30～17:00

【会場】お茶の水女子大学 文教1号館302号室

詳しい内容はお茶の水女子大学グローバルCOEのHPをご覧ください。

<http://ocha-gaps-gcoe.com/>



編集後記

今回のニュースレター7号では、今年度下半期に実施した各領域の講演会・報告会、「基礎問題プロジェクト」研究会のほか、国際社会における格差問題を取り上げた国際シンポジウムや数多くの国際セミナーの紹介を中心に掲載しました。これらの活動に伴う海外の研究者とのネットワーク構築や学術交流が、グローバルCOEの研究・教育活動により良い成果をもたらしていることと思います。来年度は本プログラムの最終年度となります。引き続き活動内容と研究成果を紹介したいと思います。

編集者 広報委員会委員 李 美静

発行 お茶の水女子大学 グローバルCOEプログラム

「格差センシティブな人間発達科学の創成」

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 文教1号館103

グローバルCOE事務局 Tel/Fax : 03-5978-5247

E-mail : jimu-gcoe@cc.ocha.ac.jp

URL : <http://ocha-gaps-gcoe.com/>